



**ガラス光沢材**  
**RYUSEI COMMUNITY, INC**

安全データシート - JIS Z 7253 : 2019 準拠

Version No: 3.00.0.2

発行日: 2025.12.23

**セクション1 化学品及び会社情報**

製品に関する情報

製品名	ガラス光沢材	
関連商品	品番	商品名
	945	ガラス光沢材
	921	5ステップウインドリペア 消耗品キット(12か所分)
	556	5ステップウインドリペア エコ6消耗品 II
外観		

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途	アクリル製 研磨用コンパウンド
------	-----------------

供給者の詳細

製造者

供給者の会社名称	株式会社 隆成コミュニティ
所在地	千葉県市原市辰巳台西一丁目2-10
電話番号	0800-805-6655
FAX番号	0436-26-6655
ホームページ	<a href="https://ryusei-usa.com/">https://ryusei-usa.com/</a>
e-メール	contact@ryusei-usa.com

**セクション2 危険有害性の要約**

化学物質又は混合物の分類

健康に対する有害性	急性毒性	区分に該当しない
	皮膚腐食性／刺激性	区分3
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分4
	呼吸器感作性または皮膚感作性	区分に該当しない
	生殖細胞変異原性	区分に該当しない
	発がん性	区分に該当しない
	生殖毒性	区分に該当しない
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分3 (気道性刺激)
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分1 (吸入：肺)
	吸引性呼吸器有害性	区分に該当しない

環境に対する有毒性	水生環境有毒性(急性)	区分に該当しない
	水生環境有毒性(慢性)	区分に該当しない

GHSラベル要素

絵表示:	
注意喚起語	危険

危険有害性情報

H226	引火性の液体及び蒸気
H304	飲み込んで気道に入ると生命に危険のおそれ
H315	皮膚刺激
H319	強い眼刺激
H335	呼吸器への刺激のおそれ
H372	長期にわたる, 又は反復暴露による肺の障害

注意書き: 安全対策

P233	容器を密閉しておくこと
P240	容器を設置しアースをとること
P241	防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること
P242	火花を発生させない工具を使用すること
P243	静電気放電に対する予防措置を講ずること
P260	粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気を吸入しないこと
P261	熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること - 禁煙
P264	取扱後はよく手を洗うこと
P280	保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること

注意書き: 応急措置

P301+P310	飲み込んだ場合: ただちに医師の診察/手当を受けること
P302+P352	皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹸で洗うこと
P305+P351+P338	眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること
P331	無理に吐かせない事
P333+P313	皮膚刺激又は発しんが生じた場合: 医師の診察/手当を受けること
P337+P313	眼の刺激が続く場合: 医師の診察/手当を受けること
P370+P378	火災の場合: 水霧、泡、粉末消火剤またはCO2を使用して、消火すること

注意書き: 保管(貯蔵)

P403+P233	換気の良い場所に保管してください。容器はしっかりと閉めてください
-----------	----------------------------------

注意書き: 廃棄

P501	内容物/容器を国際、国、都道府県、又は市町村の規則に従って、認可を受けた有害または特別廃棄物処理場に廃棄すること
------	--

セクション3 組成および成分情報

物質

混合物の組成については、以下のセクションを参照してください

混合物

成分名	CAS番号	官公公示整理番号		%[重量]
		化審法	安衛法	
コンパウンド基剤(企業秘密)	独自	情報なし	情報なし	<70
酸化アルミニウム	1344-28-1	1-23	情報なし	<15
イソパラフィン系炭化水素溶剤	64742-48-9	情報なし	情報なし	<15

アルコールエトキシレート	独自	情報なし	情報なし	<1.5
※具体的な化学物質の特定、組成濃度については企業秘密とします。				

## セクション4 応急措置

### 必要な応急措置の説明

<b>吸入した場合</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。医師の診断、手当てを受けること</li> <li>・ 呼吸が困難な場合は酸素を供給してください</li> <li>・ 呼吸が止まっている場合は人工呼吸を行ってください</li> </ul>
<b>皮膚に付着した場合</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 付着した衣服を脱ぎ、皮膚を多量の流水と石鹸で洗浄すること</li> <li>・ 皮膚刺激が持続する場合には、医師の診断を受けること</li> </ul>
<b>眼に入った場合</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 流水で15分～20分間洗浄すること(できればコンタクトレンズを外す)</li> <li>・ 眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること</li> </ul> <p>予想される急性症状及び遅発性症状：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発赤</li> </ul>
<b>飲み込んだ場合</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水で口をすすぐこと(吐かせないこと)</li> <li>・ すぐに医師の診断、手当を受けること</li> </ul> <p>予想される急性症状及び遅発性症状：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 咳</li> </ul>
<b>その他の情報</b>	データ無し
<b>医師に対する特別な注意事項</b>	経口摂取した場合。本物質は肺まで吸引され、化学物質による肺炎が起こる事がある

## セクション5 火災時の措置

### 消火活動に関する情報

<b>消火剤</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 霧噴水</li> <li>・ 泡</li> <li>・ 粉末消火剤</li> <li>・ 炭酸ガス</li> </ul>
<b>使ってはならない消火剤</b>	直接の水噴射

### 特有の危険有害性

<b>火災の際に避けるべき条件</b>	データ無し
---------------------	-------

### 消火活動に関する情報

<b>特有の消火方法</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する</li> <li>・ 延焼の恐れのないよう水スプレーで周囲のタンク、建物等の冷却をする</li> <li>・ 消火活動は風上から行う</li> <li>・ 火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する</li> <li>・ 危険でなければ火災区域から容器を移動する</li> <li>・ 蒸気は空気より重い場合があります。地面に沿って広がり、低い場所や低い場所に溜まります</li> <li>・ 密閉された空間や容器は加熱すると爆発する恐れがあります</li> </ul>
<b>火災及び爆発の危険性</b>	<p>蒸気は可燃性で空気よりも重い</p> <p>蒸気は地面を移動し、遠方の着火源に到達し、燃焼の危険を起すことがあります</p> <p>また燃焼時、熱分解により刺激性および毒性の高いガスが発生する可能性があります</p>
<b>消火を行う者の保護</b>	・ 消火作業の際は、適切な自給式の呼吸器用保護具、眼や皮膚を保護する防護服(耐熱性)を着用する

## セクション6 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

セクション8を参照

### 環境に対する注意事項

セクション12を参照

封じ込め及び浄化の方法及び機材

小規模漏出の場合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すぐに着火源を全て除去する(付近での喫煙、フレア、スパークを伴う作業は禁止)</li> <li>・危険を冒さずに出来る場合は漏出物をシャベルなどでかき集め、吸取材(砂、シリカゲル、おがくず等)に吸収させてください</li> <li>・付着物、回収物は関係法規に基づき、速やかに処分する</li> </ul>
大規模漏出の場合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境への悪影響が懸念されるため、水路、下水道、地下、河川等へ排出されないよう注意する</li> </ul>

個人用保護具に関する情報については、セクション8をご参照ください

セクション7 取扱い及び保管上の注意

安全な取扱いのための予防措置

安全取扱注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な工業基準に基づく安全対策を行い、適切な換気装置を設置してください</li> <li>・眼、皮膚、衣服に付着させないでください</li> <li>・ミスト、蒸気の発生を防いでください</li> <li>・飲食や喫煙前、作業終了時には手やその他の曝露部を中性洗剤と水で洗ってください</li> </ul>
他の情報	データ無し

混触危険性を含む、安全な保管条件

適切な保管条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乾燥している換気の良い涼しい場所に保管してください</li> <li>・直射日光を避けてください</li> <li>・容器をしっかりとし密閉し保管してください。</li> </ul>
避けるべき保管条件	データ無し

セクション8 ばく露防止及び保護措置

許容濃度

成分	CAS	物質名	TLV-TWA※1	注記	出典
酸化アルミニウム	1344-28-1	アルミニウム	2 mg/m <sup>3</sup>		※15
			0.5 mg/m <sup>3</sup>		※15
			1 mg/m <sup>3</sup>		※11
イソパラフィン系炭化水素溶剤	64742-48-9	炭化水素類	1200 mg/m <sup>3</sup> (177 PPM)※2	蒸気	※1

※1 ばく露限界値 / 時間加重平均

ほぼ全ての労働者が1日8時間、週40時間、繰り返し曝露されても健康に悪影響を受けることがないと考えられる時間加重平均濃度 ※11

※2 RCP-TWA

保護具

眼/顔面の保護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飛び散る場合は安全ゴーグルを着用してください</li> <li>・化学保護メガネを着用し、眼、皮膚への接触を避ける</li> </ul>
皮膚の保護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飛び散る場合は長袖を着用してください</li> </ul>
手/足の保護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長時間繰り返し接触する可能性がある場合には化学的耐性のある手袋(ネオプレン、ニトリル、ニトリルゴム、ポリエチレン、EVOH※、PVC、またはビニール)を着用してください</li> </ul>
身体の保護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飛び散る場合は長袖を着用してください</li> </ul>
他の保護	データ無し
呼吸器の保護	潜在的な危険がある場合(換気不足など)はガスフィルター付き呼吸保護具を着用してください

※EVOH : エチルビニルアルコール

セクション9 物理的及び化学的性質

物理的および化学的性質に関する基本情報

外観	オレンジ	蒸気密度 (大気 = 1)	データ無し
物理的状態	ペースト状	比重 (水 = 1)	データ無し

臭い	特徴的な臭い	自然発火温度(°C)	データ無し
pH(製品)	7.5	熱分解温度(°C)	データ無し
融点/凝固点(°C)	0 °C	粘度	データ無し
沸点/沸騰温度(°C)	100 °C	分子量(g/mol)	データ無し
引火点	87.77 °C	味	データ無し
蒸気圧(kPa)	5.866 kPa	爆発性	データ無し
水溶解性	データ無し	VOC含有量	データ無し

**セクション10 安定性及び反応性**

反応性	通常の使用条件下では危険な反応は知られていない
化学的安定性	製品は安定しており、保管条件下では安定です
危険有害反応可能性	セクション7 参照
避けるべき条件	加熱、火花、裸火、その他の発火源は避ける
混触危険物質	強酸化剤
危険有害な分解生成物	セクション5 参照

**セクション11 有害性情報**

毒物学的影響に関する情報

吸入した場合	・飲み込んで気道に入ると致命的となる場合があります ・呼吸器への刺激を引き起こす可能性があります
飲み込んだ場合	データ無し
皮膚に付着した場合	・アレルギー性の皮膚反応を引き起こす可能性があります
眼に入った場合	データ無し
慢性毒性	データ無し

急性毒性

成分名	CAS番号	経路	試験対象	毒性	出典	区分
酸化アルミニウム	1344-28-1	経口	ラット	LD50: >5,000 mg/kg	※10	区分に該当しない
イソパラフィン系炭化水素溶剤	64742-48-9	経口	ラット	LD50: 8,400 mg/kg	※14	区分に該当しない
		経皮	ウサギ	LD50: >3,160 mg/kg	※10	区分に該当しない

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

成分名	CAS番号	データ	出典	区分
イソパラフィン系炭化水素溶剤	64742-48-9	長期間の暴露により皮膚に中度の刺激を与える	※1	区分3

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

成分名	CAS番号	データ	出典	区分
イソパラフィン系炭化水素溶剤	64742-48-9	眼に、短い時間軽度な不快感を及ぼす恐れがある	※1	区分4

呼吸器感受性または皮膚感受性

成分名	CAS番号	データ	出典	区分
イソパラフィン系炭化水素溶剤	64742-48-9	常温/通常取り扱う温度では、無視できる有害性しかない	※1	区分に該当しない

生殖細胞変異原性

成分名	CAS番号	データ	出典	区分
酸化アルミニウム	1344-28-1	in vivo : 変異原性試験が実施されておらず in vitro : 変異原性試験において陰性のみであり、データ不足により分類できないとした	※11	分類できない

発がん性

成分名	CAS番号	データ	出典	区分
酸化アルミニウム	1344-28-1	ACGIHはグループA4（ヒト発がん性に分類できない物質）に分類している	※11	区分に該当しない

生殖毒性

成分名	CAS番号	データ	出典	区分
データ無し				

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

成分名	CAS番号	データ	出典	区分
酸化アルミニウム	1344-28-1	上気道刺激性があるとの記載より区分3（気道刺激性）に分類した呼吸器への刺激のおそれ	※1	区分3(気道性刺激)
インパラフィン系炭化水素溶剤	64742-48-9	飲み込むないし吐き出す最中に、吸引される少量の液が化学的気管支肺炎ないし肺水腫を引き起こす可能性がある	※1	区分3(気道性刺激)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

成分名	CAS番号	データ	出典	区分
酸化アルミニウム	1344-28-1	酸化アルミニウムの職業ばく露により、肺に繊維症が認められたとの報告がある為、区分1に分類した。長期または反復ばく露(吸入)による肺の障害	※3	区分1(吸入：肺)

GHS分類判断

急性毒性	x	発がん性	x
皮膚腐食性/刺激性	x	生殖毒性	x
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	x	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	✓
呼吸器感受性または皮膚感受性	x	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	✓
生殖細胞変異原性	x	吸引力呼吸器有毒性	x

x - データ無し(分類できない)、または区分に該当しない  
 ✓ - 分類済み

セクション12 環境影響情報

生態毒性

成分名	CAS番号	エンドポイント	試験期間 (時間)	生物種	試験結果	出典 / 区分
データ無し						

残留性・分解性

成分名	CAS番号	残留性	分解性	出典
データ無し				

生体蓄積性

成分名	CAS番号	生物濃縮性	出典
データ無し			
LogKOW(オクタノール/水分配係数)			

土壌中の移動性

成分名	CAS番号	移動性	出典
データ無し			
KOC(分配係数)			

セクション13 廃棄上の注意

廃棄方法

製品/容器/包装の廃棄方法	・ 廃棄する場合は廃棄物の処理を管理している都道府県・市区町村に問い合わせること
---------------	--

セクション14 輸送上の注意

陸上輸送(ADG):	危険物輸送規制対象外
航空輸送(ICAO-IATA / DGR):	危険物輸送規制対象外
海上輸送(IMDG-Code / GGVSee):	危険物輸送規制対象外

MARPOL 付属書II 及び IBCコードによるばら積み輸送:	該当しない
MARPOL 付属書V 及び IMSBCコードに従い、バルク輸送:	データ無し
ICG規範に従い、バルク輸送:	データ無し

### セクション15 適用法令

#### 労働基準法

該当成分名	CAS番号	該当項目	備考
酸化アルミニウム	1344-28-1	リスクアセスメントを実施すべき危険有害物	法第57条の3
イソパラフィン系炭化水素溶剤	64742-48-9	引火性の物(危険物)	施行令別表第1第4号

#### じん肺法

該当成分名	CAS番号	該当項目	備考
酸化アルミニウム	1344-28-1	施行規則第2条別表 粉じん作業	アルミナ、粉じん

#### 消防法

該当成分名	CAS番号	該当項目	備考
イソパラフィン系炭化水素溶剤	64742-48-9	第4類 引火性液体 第2石油類 (非水溶性)	危険等級III

### セクション16 その他の情報

#### 出典元

- ※1 製造者のSDSから得られた値
  - ※2 CERIHazardデータ集 / 化学物質評価研究機構(CERI)
  - ※3 ECHA登録物質/欧州化学物質庁(ECHA)
  - ※4 JACC(Joint assessment of commodity chemicals) Report / ECETOC(欧州化学物質生態毒性及び毒性センター)
  - ※5 Patty's Toxicology
  - ※6 EPIWON(WHO Information Network for Epidemics Suite)
  - ※7 SIDS(Screening Information Data Set) / OECD(経済協力開発機構)
  - ※8 CICAD(国際化学物質簡潔評価文書)
  - ※9 IARC(国際がん研究機関)
  - ※10 IUCLID(国際統一化学物質情報データベース)
  - ※11 ACGIH(米国産業衛生専門家会議)
  - ※12 IRIS(Integrated Risk Information System) / 米国環境保護庁(EPA)
  - ※13 ECOTOX(Ecotoxicology Database) / 米国環境保護庁(EPA)
  - ※14 RTECS(Registry of Toxic Effects of Chemical Substances) / 米国国立労働衛生研究所(NIOSH)
  - ※15 JSOH(日本産業衛生学会)
  - ※16 NITE(製品評価技術基盤機構)
  - ※17 DFGOT(化学物質の産業衛生に関する評価文書) / ドイツ学術振興会(DFG)
  - ※18 GESTIS(有害物情報データベース) / ドイツ同業者労災保険組合
  - ※19 REACH(EU 化学物質の登録、評価、認可及び制限に関する規則)登録情報
  - ※20 NTP(National Toxicology Program) / アメリカ合衆国保健福祉省(HHS)
  - ※21 JFCFA(FAO/WHO Joint Expert Committee on Food Additives) / 食品添加物専門家会議
  - ※22 HSDB(Hazardous Substances Data Bank) / 米国国立医学図書館(NLM)
- 出典元 / 作成者

#### 最初の発行日

08/31/2020

#### SDSバージョンの概要

バージョン	改訂日	更新されたセクション
2.12.2.1	04/26/2021	規制の変更
2.12.3.1	05/13/2021	規制の変更
2.12.3.2	12/28/2022	分類, 環境, 成分, 品名
2.12.3.3	01/20/2023	成分
3.00.0.1	10/01/2025	フォーマット整理、成分名を変更(NITE基準)
3.00.0.2	12/23/2025	表示・通知義務を削除: 酸化アルミニウム(基発0830第1号 令和5年8月30日) 成分名を変更: イソパラフィン系炭化水素溶剤

#### 免責事項:

この安全データシート(SDS)の情報は発行時における当社の入手可能な情報に基づいて正しいものであると考えております。記載されている情報は安全な取り扱い、使用、保管、輸送、および廃棄のためのガイダンスとしてのみ設計されており、保証、品質仕様とはみなされません。使用から生じる損失、損害または傷害に関する賠償責任を引き受ける物ではありません。本SDSの記載内容は指定された特定の材料のみに関連しており、記載されている範囲外の使用、あるいは他の物質との組み合わせでの使用においては有効ではない場合があります。これらの理由からお客様がご自身の用途に製品が適合しているかご自身で評価、判断頂く事が重要です。